

【トラック2】

まる「それじゃあお兄さんは席に座ったまま...上のシャツもぬいじやいましょうね～」
まる「はい、ごちゃごちゃ言わず～脱いで～脱いで～♡」

まる「ほらぁ♡薄い下着に、ぴ～ったり...」

まる「勃起したエロ乳首が浮き上がってますよ？」

まる「さっきツンって指で押されたから、乳首さん期待しちゃいました？」
まる「...本当はここ、指でくりくりされるの好きなんですよね♡」

まる「マルが背後から抱きつくようにい...この勃起乳首...」
まる「さわさわ～ってして気持ちよくしてあげますよお？ くすっ」
まる「まずはあ、胸全体を女の子のおっぱいを揉むように、優しく...もみもみ♡」
まる「お兄さんのおっぱいをマルの小さなおてでてもみもみ♡」

まる「くすっ、お兄さん？これだけでなんでズボン盛り上がってるんですかぁ～？」
まる「揉まれただけで、ちんぽバキバキに勃起しちゃうんですか？ あはっ、ざっこ♡」
まる「あ、失礼しました～♡」

まる「今度は硬くなった乳首さんの周りを、くるくる...くるくる...」
まる「ふふっ、耳元で囁かれるの恥ずかしいですか～？」

まる「んっ...はあ...乳首をお...くるくる、くるくるう...」
まる「乳首さんが触って欲しくてえ...んっ、どんどんもどかしくなってえ...」
まる「小さな女の子に...んっ、乳首をいっぱいコネコネされてえ...」
まる「痺れるような快感が欲しくて、たまらなくなっちゃう...はあ...」

まる「くすっ、堪え性のない、ザコ乳首、なんですね♡」

まる「お兄さん、普段から自分で乳首いじってますよね？」
まる「こんな反応されたら分かっちゃいますしい...マル好みの変態です♡」
まる「それに...変態、って言われるとピクピクして...」

まる「もしかして...マゾ、なんですかぁ？」
まる「マゾ...乳首大好きなマゾ♡」
まる「あはっ、そうなんだあ、お兄さんって乳首マゾの変態さんなんだあ♡」

まる「じゃあ、こういうのはどうです？」

まる「お兄さんのお耳を、マルのこの舌でえ...犯しながらの乳輪さわさわ♡」
まる「お好きですかぁ？」

まる「くすっ、お耳レイプ期待しちゃって...恥ずかしい人ですね♡」
まる「それでは、いただきま～す♡」

まる「んちゅ...ちゅる...じゅる...んむう...乳首の周りを...さわさわ...」
まる「ちゅぷ...こすこす...ちゅる...くすっ、ぷっくりマゾ乳首♡」

まる「ちゅる...ふう、乳輪だけじゃもどかしくてえ...ザコ乳首ムラムラ、びんびん♡」
まる「触ってほしい、ですか？」

まる「おちんぽみたく勃起した、感度抜群のマゾ乳首...」
まる「指でちょんちょん...コネコネ...カリカリいって、してほしいですか？♡」
まる「くすっ、いいですよ...しっかり自分の変態乳首みててくださいねえ...」
まる「マルの指が...乳首の先端に...ぴと♡このままちょんちょん...♡」
まる「あっあっ、気持ちいいですね～♡じんわりした快感がきちゃいますね～♡」
まる「ちょんちょん...ちょんちょん♡」

まる「このまま指のお腹で優しく、さわさわ、っしてあげます♡」
まる「さわさわ、さわさわ...敏感になった乳頭を、さわさわさわわ♡」
まる「薄い下着に擦れて...あまあい刺激が脳までのぼってきちゃって...」
まる「小さい女の子に乳首弄ばれるの、どんな気持ちですかぁ？♡」

まる「変態...変態...乳首大好きなマゾ...」
まる「乳首でおちんぽ、ガチガチに勃起させちゃう恥ずかしいオス♡」

まる「や～ん、マゾ煽りも嬉しいんですねえ、きもちわるう♡」
まる「いやらしすぎて軽蔑しますう♡」
まる「でもマルはそんな変態なお兄さん好きだからあ...」

まる「もっとザコ乳首犯して、ヨガらせたくります♡」

まる「今度は指で優しく摘んで...コリコリいってしますね...」
まる「ほら、ちゃんと自分の変態乳首みてください？」

まる「指できゅって摘んで...こするようにい」
まる「コリコリ...コリコリ...コリコリコリコリ...♡」
まる「変態乳首をきゅつきゅって、コリコリコリコリ♡」
まる「くすっ、今度は早めに...コリコリッ...コリコリコリコリ♡」
まる「気持ちいいですねえ、頭あまあまで蕩けちゃいますねえ♡」
まる「いいですよお、もっと乳首でバカになってくださあ～い♡」

まる「今度は反対側のお耳もお...ペロペロ舌で犯されたいんじゃないですかぁ？

まる「ふー...敏感なお耳♡...乳首を指でくにゅくにゅしながら舐めてあげます...♡」

まる「はあ...んっ...ちゅる...じゅるる...くすっ、ちよっとしよっぱい♡」
まる「んじゅ...じゅる...こりこりい...ちゅば...じゅるる...くにゅくにゅ...♡」

まる「じゅるる...ちゅば...くすっ、乳首を指で優しくくにゅくにゅ...」
まる「くすっ、キモ顔♡頭ふわふわしてぼーっとしちゃいます？」
まる「ズボンも苦しそうだし、もう我慢汁が溢れてるとかぁ？」

まる「ねえ見せてくださいよ～、ガチガチのおちんぽ見せて～」
まる「...ダメですか？なんですか？...恥ずかしいんですかぁ？」

まる「くすっ、おちんぽ、お兄さんのかつこいいおちんぽ...」
まる「乳首コネられて、バキバキに興奮しちゃった、マゾチンポお♡」
まる「見せてくれたらあ...マルのこの爪で、カリカリカリカリいって...」
まる「も～っと乳首気持ちよくしてあげますよお？」
まる「おちんぽ見せてっ、変態乳首でフルボッキしたおちんぽ...」
まり「ロリロリな女の子に見せつけて、もっと興奮しましょうよお？」

まる「ほら、脱いでください、このマゾ♡」

まる「ちゃんと脱ぎ脱ぎできてえらいですね〜♡」

まる「それに...ぷっ、くすっ、やっぱりちんぽの先から透明なお汁...」

まる「とぷとぷお漏らししてるんですね♡きったな♡」

まる「それに蒸れたおちんぽくっさあ〜い♡下品なおすの匂い♡」

まる「まだ触ってもいないのに、エッチなお汁たぶたぶさせてえ...」

まる「なんでですかあ？ それってえ、お兄さんがマゾ、だからですよ♡」

まる「お耳べろべろ舐められて...乳首コリコリ〜ってされたらあ...」

まる「雑魚なお兄さんはあ、恥ずかしくマゾ汁垂れ流しちゃうんだあ、変態♡」

まる「ちゃんと脱げたご褒美に、この指でカリカリ、してあげようかなあ〜」

まる「でもその前に、せっかく出したマゾちんぽ♡そのままは可哀想ですよ♡」

まる「おちんぽシコってよお、チンズリしてよお♡」

まる「びゅくびゅくお射精したいよおって主張してるみたいです♡」

まる「マルが耳元で囁いて、ザコ乳首をカリカリ虐められながらあ...」

まる「シコシコ、シコシコってマゾ汁吐き出せたら、とても幸せですよ♡」

まる「くすっ、いじりやすいように...んっ、くちゅ...じゅる...」

まる「こうひて、唾液を...ためて...ちゅる...んふっ」

まる「おちんぽに...んっ、んべええ...はあ...」

まる「ほら、いっぱい唾液を垂らしてあげましたよお♡」

まる「お兄さんの汚いカウパーとマルの唾液がブレンドされて...」

まる「おちんぽトロトロおって...いやらしく光ってますう」

まる「このヌルヌルのおちんぽ、お兄さんの手でシコっていいですよ？」

まる「マルはこのマゾ乳首で両手塞がってるのでえ」

まる「みっともなく自分でオナニー、ちゅこちゅこしてあげてください♡」

まる「マルが耳元で囁いて乳首カリカリしてあげますからあ...」

まる「それに合わせて情けなくチンズリ、しましうね〜？」

まる「小さい女の子に、乳首イキで遠くまでびゅっびゅって飛ばすところ...」

まる「情けないオスの姿、見せてください♡」

まる「くすっ、あ〜あ、惨めにシコシコ始めちゃった♡」

まる「見られながらの恥ずかしいチンシコオナニー気持ちいいですね♡」

まる「おててにヌルヌルが絡み付いて...ぬちゅぬちゅいやらしい音をたててえ...♡」

まる「ちゅこちゅこ...ちゅこちゅこ...んっ、あっ、おちんぽシゴくの好きい...」

まる「ふうー、コスコスとまんない♡おっ、びゅっびゅしたいよお♡」

まる「おっ、おっ、もっと見て、下品な僕を見てくださいい♡」

まる「ロリコンマゾな僕はあ、女の子に見られると感度100倍ですう、んっ♡」

まる「くすっ、それじゃあマルも乳首カリカリ...してあげます♡」

まる「乳首の先端に爪を当てて...カーリ...カーリ...」

まる「ゆっくり焦らすように...カーリカーリ...カーリカーリ...」

まる「カリカリカリカリ...カリカリカリカリ...」

まる「ジンジンしてる乳首の先端を...カリカリカリカリ...カリカリカリカリカリ...」

まる「ねっとりねぶるように...指でピンピン弾いて...かあり...かあり...」

まる「たまにちょっと早く...カリカリカリカリ♡」

まる「あははっ、カリカリシコシコ気持ちいいですね〜♡」
まる「乳首で頭蕩けさして、おちんぽ上下にコスコスして...」
まる「恥ずかしい吐息を漏らして、とても気持ち悪くて可愛いお顔♡」

まる「もっと気持ちよくして、射精感高めていきましょうね〜♡」
まる「カリカリカリカリ...マゾ乳首さんを、カリカリカリカリ...」

まる「ねえお兄さん？...自分の恥ずかしい状況、分かってますう？」
まる「小学生くらいの女の子に、背後から乳首カリカリされて...」

まる「涎と先走り汁でドロドロになったおちんぽを...」
まる「お猿さんみたいにちゅこちゅこちゅこちゅこ...」
まる「自分のおててで必死にシゴいて...」

まる「んっあっ、乳首い...マゾ乳首気持ちいい...はあ...んっ、あんっ...ちんぽもしゅきい...」
まる「おっ、おっ、小さな女の子に囁かれながらのチンズリ、さいっこお...んっはあ...」

まる「んっあふう...ちんぽお...ちんぽ止まんない...んっ、ふう...」

まる「くすっ、だらしなあ〜く口開けて欲情しちゃって♡」
まる「自分の変態的な状況を説明されると、ますます興奮します？くすっ、きも♡」
まる「じゃあ、乳首カリカリしながら耳舐め、してあげますね♡」

まる「...はあ...んじゅる...ちゅぷ...ほらあ、マゾ乳首さん虐めてあげますからあ...」
まる「んちゅる...じゅる...おちんぽコスコス頑張れえ...♡」

まる「んちゅ...カリカリい...ちゅぱ...マゾ乳首い...カリカリカリカリい、んっ、じゅる」
まる「ちゅぱ...くすっ、変態♡ちゅる...カリカリ...んっ、カリカリカリい...」

まる「んちゅう...お耳も乳首も、オチンポも...」
まる「全部とろとろ〜って気持ちよくなれて幸せですねえ♡」
まる「でもお、反対のお耳も犯すので、まだ射精は我慢ですよお？」

まる「雑魚さんなのは分かりましたけどお、ちゃんと射精コントロールしてくださいね♡」

まる「こっちも...マルの舌を奥までねじ込んで、レイプしてあげます...」
まる「んっ、ちゅう...じゅる...くすっ、マゾ♡...んじゅる」

まる「ちゅ...変態...ちゅぱ...変態乳首い...カリカリカリカリい、んっ、じゅぷ」
まる「ちゅぱ...くすっ、まーぞ♡ちゅる...どマゾ変態い、ちゅる...カリカリカリい...」

まる「ぷはっ...ふう...お耳が涎でとろとろお♡」
まる「舐めるたびにビクビクして...お耳までマゾですね♡」

まる「んー？ちんぽをシゴくスピード早くなってませんか？」
まる「...そろそろお精子びゅっびゅ、したいですかあ？」

まる「くすっ、ざっこお♡」

まる「言葉にしなくても体は素直...快感に溺れただらしない顔して...」
まる「乳首をマルがカリカリ〜ってする度にびくんびくん...」
まる「セックスしてるみたいに上下にちんぽをスライドさせて...」
まる「ほんと、恥ずかしいオスですねえ、お兄さん♡」

まる「そだ、ちょっと待ってくださいね？」

まる「んしょ...ぬぎぬぎ〜っと...ほら、マルの脱ぎたてパンツですよ〜♡」
まる「温かくて、エッチな染みつきの子供パンツ♡」
まる「これを雑魚ちんぽに包んで...パンツコキ、していいですよ？」

まる「い〜っぱい我慢して溜め込んだマゾミルクを...」
まる「マルの子供パンツにぶちまけていいんですよ？」
まる「お兄さんのこってりザーメンをぶっかけてえ...」
まる「小さな女兒パンツに変態マーキングしちゃいましょうよ？」
まる「ちゃんとかっこよくお射精できたらあ...」

まる「ドロドロに汚した子供パンツ...お兄さん目の前でえ、履いてあげますよ？♡」
まる「みたいですよね〜、自分が気持ちよくぶっかけた子供パンツを履いて...」
まる「べっとりした精子がおまんこ『ぬちゅ』ってくっつくところ♡」

まる「遠慮せず、そのキンタマでぐつぐつ製造した濃厚ザーめん...」
まる「マルのおまんこ想像していっぱい汚してくださいね♡」
まる「それじゃ、射精まで高速カリカリと耳元煽り、してあげます♡」

まる「カリカリカリカリ...おっ、おっ、マゾ乳首きつく...」
まる「気持ちいい...んっはあ...小さな指で乳首カリカリ好き...んっふう」
まる「あっあっ...乳首往復でコスコスされるたびい...おっおっ、ちんぽに響いて...」
まる「シコシコ止まらないい...ぴゅっぴゅしたい、ぴゅっぴゅしたい♡」

まる「はあ...んっ、あんっ、いつも家でえチクニーしながらチンシコしてるの...」
まる「バレちゃう...んっおっ、恥ずかしいオナニーばれちゃう...んっ」
まる「んっ、そうですっ、はあ...僕はチクニー大好きなあ...おっ、おふっ♡」
まる「マゾの変態でえ...乳首いじられると、おちんぽフル勃起して射精準備するんです」

まる「ほおら、カリカリカリカリカリ...変態乳首をカリッカリカリッ」
まる「カリカリカリカリっ...あはっ、もっと無様に鳴いてください、変態マゾ♡」

まる「あっあっ、乳首っ、変態乳首っ、気持ちいいです...もっと犯してえ...」
まる「んっ、んおお、カリカリ好き...しゅきい...勃起乳首いじめてえ...♡」

まる「んおお...のぼってくる...マゾ精子のぼってきますっ、変態お射精い...」
まる「んっ、はあ...小さな女の子に見られながらびゅるびゅるしたいい...」
まる「んおっおっ、イキそう、んっはあ...いきそういきそうですっ、耳元でエッチな言葉囁かれてえ...乳首は
じかれてえ...涎垂らしでオスイキしちゃうう」

まる「おっおっ、イグ...イグイグイグ...マゾザーメンのぼってくる...子供おぱんつにマーキングしちゃう...
んっあっいぐいぐ...いっぐううう♡」

まる「ぶっかけてください♡乳首マゾのお兄さん♡」

まる「くすっ、びゅるびゅる〜ぴゅっぴゅ♡」
まる「あはっ、いっぱい出てる♡びゅくびゅく〜びゅるる...ぴゅっぴゅっぴゅ〜♡」

まる「お兄さんの汚いザーメンで、マルの子供パンツ...どろどろに汚されちゃいましたあ♡」
まる「オス特有のくっさあい匂いが染み付いて...これ履いたら妊娠しちゃいそうです♡」

まる「それじゃ、パンツかしてください♡」

まる「すんすん...すん...うわっ、やっぱあ...」
まる「女の子が嗅いじやったら即発情しちゃう...生臭い匂いいい...♡」
まる「ん...はあ...濃厚で...こってりしてて、どろどろのくっさあい精子...♡」

まる「ずっと嗅いでたくなる...んっ、はぁ...たまらないですう♡」

まる「見ててくださいねえ、ほら...履きますよ？ ゆっくりマルの細い足を登って.....ぬちゅ♡」

まる「や〜ん、あつついマゾ汁がスジマンに当たっちゃってますう♡」

まる「ヌルヌルで...指でなぞると...んっ、はぁ...おまんこの中に入っちゃいそう♡」

まる「見えますう？ お兄さんの精子で透けたパイパンまんこ♡」

まる「くすっ、ごちそうさまでした♡」

まる「さて、どうでしたー？ 当店自慢の特別コースは！」

まる「ご満足いただけましたか〜？」

まる「気に入ったならこのまま常連になってくださっても...」

まる「あ、そうだ...ちょっと待っててくださいね？」

まる「お待たせしました、光の速さで仕上げました！」

まる「まる特製の乳首オムライス！略してまるちくライスです！」

まる「形がこう...乳首っぼいのがポイントでして...え？」

まる「なんでと言われましても...」

まる「...特別コースなんで...ほら、メニューの特別コースの欄にも書いてありますよ？ オムライスって」

まる「まあまあ、萌えメイド喫茶と言ったらオムライスじゃないですか」

まる「冷めないうちにどうぞ食べてください♡」

まる「はい、あ〜ん♡もぐもぐ♡」

まる「あ、あとこれ伝票です」

まる「ちょっ！ まるちくライス嘔き出さないでくださいよっ！ 汚いですね！」

まる「適正価格ですよ！ 適正価格！」

まる「お客さんは他に誰もいませんから、ゆっくり食べてくださいね〜♡」